

2005年度  
ユネスコ・世界寺子屋運動リーフレット制作に取り組む  
児童生徒の意識についての調査報告  
2006年6月1日

1)河崎 睦2)水谷 浩三3)米田 謙三4)山田 真稔

[所属]

1)神奈川県綾瀬市立土棚小学校2)三重県 暁学園暁小学校3)大阪府羽衣学園高等学校4)和歌山県かつらぎ町立大谷小学校

## 1.1 はじめに

ユネスコ・世界寺子屋運動とは？

将来に大きな希望を持ち、その夢に向かって学びたくても貧困や紛争などのために学校に通えず、読み書き計算ができない人々、今現在学校に通えない子どもたちが、世界中に10億人ほどもいます。この公共機関で教育を享受できない皆さんが、読み書きや算数(識字能力)を学び、収入向上に結びつくトレーニングを受けられるような「学びの場=寺子屋」の建設、教員養成、教材・教具の提供など、教育のチャンスを支援する運動が「ユネスコ・世界寺子屋運動」です。この「ユネスコ・世界寺子屋運動」は、(社)日本ユネスコ協会連盟が識字教育をおこなっている発展途上国の民間団体(NGO)や地方行政機関(教育委員会)と連携して独自に推進している運動です。2015年までに「すべての人に教育を」をスローガンに、アフガニスタンやインド、ネパール、カンボジアなど、アジアを中心に、寺子屋(コミュニティ学習センター)を通じ、そこで生きる人びとによる自立を目指していくことを目標としています。

活 動

リーフレット制作活動を通して、ユネスコ・世界寺子屋運動を学び、運動を支援します。

ねらい

ユネスコ・世界寺子屋運動への支援を通して出会った人やものに関わりを持つ中で、情報教育、国際理解、平和教育、人権教育などを推進し、総合的な学習の時間がめざす、自ら学び自ら考える力など全人的な生きる力の育成を図ります。

重 点

世界寺子屋運動をより多くの皆さんに理解してもらうための効果的なリーフレットの要件やデザインを考え、追及する活動を通して、より分かりやすく印象的に伝える方法を学び、情報活用能力を育成します。

研 究

世界寺子屋運動を支援する活動の中で、リーフレット制作が子どもたちの学びにどういった役割を果たしたか、総合的な学習の時間におけるデジタル表現活動の意味を明らかにします。リーフレット制作が、活動全体の流れの中で、どの時点で、どういった授業で展開されるのが有効・適切であるかを検証します。

プロジェクトについて

2005年度も公募により、前年度を上回る21校、1,455名の子どもたちが参加します。昨年度からのリピーター参加が多いことが、このプロジェクトのチームワークと学びの確かさを何より物語っています。今年度も北海道から九州までカバーし、数名の小規模参加から百名以上の大規模参加、そして小学3年生・5年生・6年生・中学1年生・高校1年生・2年生と、各校種、学年がそろったダイナミックな全国組織の大プロジェクトになりました。

ユネスコ協会やデジタルデザインの専門家の皆さん、地域の皆さん、参加校同士の交流など、人と人のかかわりの中での学びに、デジタル表現活動での学びを寄り添わせ、単独校の活動では得られないプロジェクトベースならではの課題追求学習のよさを実感して推進していきたいと思います。

そして、日本では考えられない非識字の現状と出会い向き合う参加校の子どもたちと教師が一緒になって、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かねばならない」というユネスコ憲章前文の理念に迫るプロジェクトをめざします。また、D-project調査研究プロジェクトと連携して、子どもたちの意識や学びを明確に捉えていきたいと思っています。

調査目的

以上のような状況をふまえて、ユネスコ・世界寺子屋運動リーフレット制作に取り組む児童生徒が、どのような意識のもとに取り組んだのかについて調査をする必要があると考えられる。そこで、webアンケートを実施した。

## 2. 研究の方法

### 2.1 児童生徒の意識調査

#### 2.1.1 調査目的

ユネスコ・世界寺子屋運動リーフレット制作に取り組む児童生徒が、どのような意識のもとに取り組んだのかについて調査をする。

#### 2.1.2 方法

##### (1) 調査対象者

ユネスコ・世界寺子屋運動リーフレット制作に取り組むに取り組んだ児童生徒778名(男子303名女子475名)

小学校 3年生 59名

4年生 2名

5年生 220名

6年生 278名

中学校 1年生 106名

2年生 9名

高等学校 2年生 94名

3年生 10名

##### (2) 調査期日 2006年2月6日 から 同3月17日

##### (3) 調査項目

調査はWebアンケートまたは紙を媒体として行った。

●これはユネスコの活動について聞く質問です。  
活動を通して考えたこと感じたことを思い出して答えてください。

1、あなたのことについて聞きます。

- (1)あなたの学校を選んでください。
- (2)学年を選んでください。
- (3)どちらかを選んでください。   男   女

2、リーフレットを作っている時にどんなことを考えながら作っていましたか。  
自分が考えたことに一番近いところの番号を押してください。

- (1)見た人が協力してくれるような内容にしたい  
考えていた すこし考えていた あまり考えていない 考えていない  
<以下同様>
- (2)世界の子どもたちを助けたい
- (3)世界の子どもたちによるこんでもらいたい
- (4)貧しい人たちを救いたい
- (5)ユネスコの活動を知ってもらいたい
- (6)ひとりでも多くの人を救いたい
- (7)たくさんはがきを集めたい

3、リーフレットをみる人にどんなことが伝わるように作っていましたか。

- (1)学校に行けない人がたくさんいること  
考えていた すこし考えていた あまり考えていない 考えていない  
<以下同様>
- (2)たくさんの人に協力してほしいこと
- (3)文字が書けない人たちがたくさんいること
- (4)はがきをたくさん集めたいこと
- (5)学習ができるところを作ってあげたいこと

4、作品を作っている時にどんなことを考えながら作っていましたか。

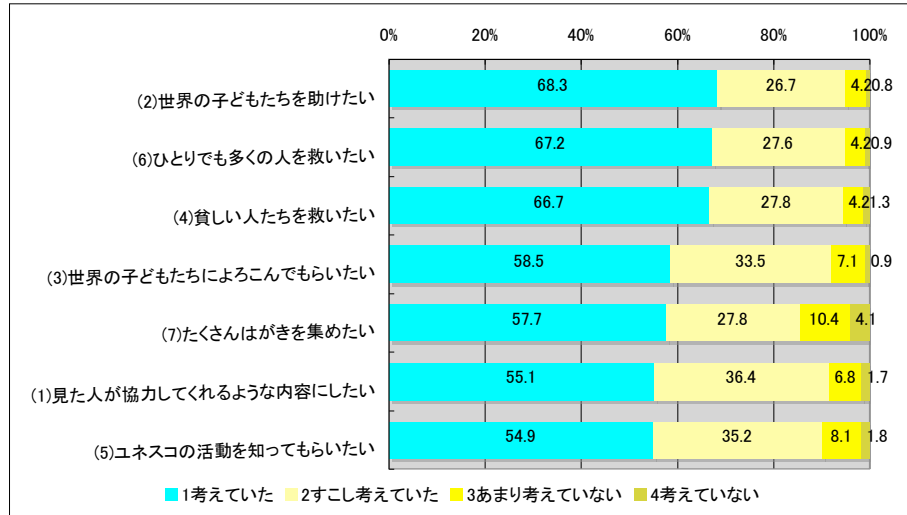
- (1)おもしろい作品にしようと思った  
そう思う すこしそう思う あまりそう思わない そう思わない  
<以下同様>
- (2)きれいな作品にしようと思った
- (3)他の人とはちがう作品を作ろうと思った
- (4)作品を作ることは楽しかった
- (5)見やすい作品にしようと思った
- (6)読みやすい作品にしようと思った
- (7)自分の作品はよくできたと思った
- (8)みんなに見てもらいたいと思った
- (9)作品作りは難しかった
- (10)自分の考えや思ったことが見た人にうまく伝わるようにしようと思った
- (11)自分の作品をほかの人がみて、どう思うか気になった
- (12)自分がやりたいと思ったことを自由に表現できた
- (13)たくさんの人たちに自分の作品を見てもらえてよかった

5、ユネスコの活動を通してよかったことやなおしてほしいことがあれば書いてください。

### 2.1.3結果と考察

2、リーフレットを作っている時にどんなことを考えながら作っていましたか。

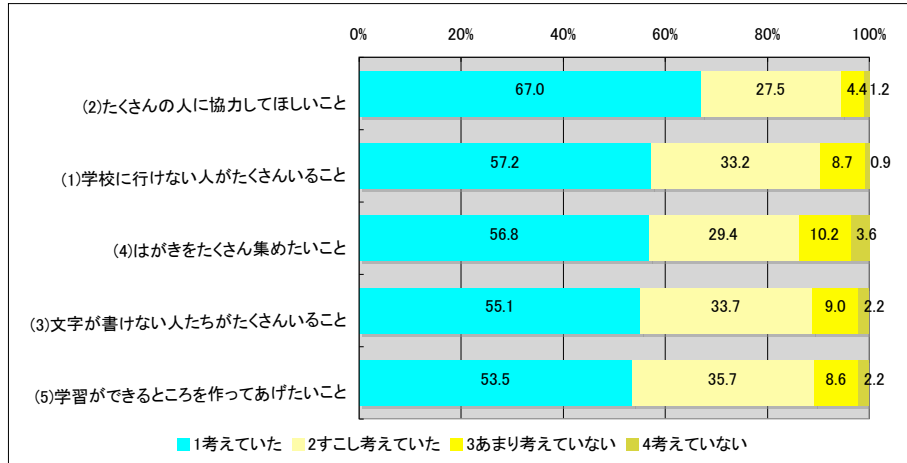
「(2)世界の子どもたちを助けたい」「(6)ひとりでも多くの人を救いたい」「(4)貧しい人々を救いたい」と答えている。ユネスコの活動本来の目的を児童生徒がよく理解して取り組んでいたことがわかる。



	1考えた	2すこし考えていた	3あまり考えていない	4考えていない
(2)世界の子どもたちを助けたい	531	208	33	6
	68.3	26.7	4.2	0.8
(6)ひとりでも多くの人を救いたい	523	215	33	7
	67.2	27.6	4.2	0.9
(4)貧しい人々を救いたい	519	216	33	10
	66.7	27.8	4.2	1.3
(3)世界の子どもたちによるこんでもらいたい	455	261	55	7
	58.5	33.5	7.1	0.9
(7)たくさんはがきを集めたい	449	216	81	32
	57.7	27.8	10.4	4.1
(1)見た人が協力してくれるような内容にしたい	429	283	53	13
	55.1	36.4	6.8	1.7
(5)ユネスコの活動を知ってもらいたい	427	274	63	14
	54.9	35.2	8.1	1.8

3、リーフレットをみる人にどんなことが伝わるように作っていましたか。

「(2)たくさんの人に協力してほしいこと」「(1)学校に行けない人がたくさんいること」「(4)はがきをたくさん集めたいこと」と答えている。リーフレットの作成目的や意図がよくわかって活動していたことがわかる。



	1 考えていた	2 すこし考えていた	3 あまり考えていない	4 考えていない
(2)たくさんの人に協力してほしいこと	521.0	214.0	34.0	9.0
(1)学校に行けない人がたくさんいること	445.0	258.0	68.0	7.0
(4)はがきをたくさん集めたいこと	442.0	229.0	79.0	28.0
(3)文字が書けない人たちがたくさんいること	429.0	262.0	70.0	17.0
(5)学習ができる場所を作りたいこと	416.0	278.0	67.0	17.0

4. 作品を作っている時にどんなことを考えながら作っていましたか。

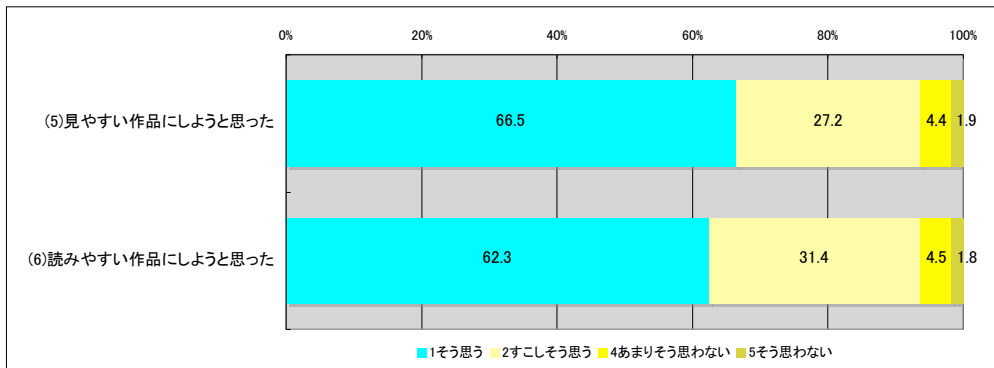
「(5)見やすい作品にしようと思った」「(6)読みやすい作品にしようと思った」と児童生徒たちの努力が感じられる結果となった。さらに、「(4)作品を作ることは楽しかった」「(2)きれいな作品にしようと思った」と、同時に作品作りの楽しさを味わっていたことがわかる。  
一方、「(12)自分がやりたいと思ったことを自由に表現できた」と答えている児童生徒は、他の項目に比べて少なくなる。また、「(7)自分の作品はよくできたと思った」と答える児童生徒も少なくなる。このことについては、さらに突っ込んだ調査研究が必要になるであろう。



	1考えていた	2少し考えていた	3あまり考えていない	4考えていない
(5)見やすい作品にしようと思った	517	212	34	15
	66.5	27.2	4.4	1.9
(6)読みやすい作品にしようと思った	485	244	35	14
	62.3	31.4	4.5	1.8
(4)作品を作ることは楽しかった	432	240	70	36
	55.5	30.8	9.0	4.6
(2)きれいな作品にしようと思った	409	247	95	27
	52.6	31.7	12.2	3.5
(10)自分の考えや思ったことが見た人にうまく伝わるようにしようと思った	374	322	57	25
	48.1	41.4	7.3	3.2
(8)みんなに見てもらいたいと思った	370	239	129	40
	47.6	30.7	16.6	5.1
(3)他の人とはちがう作品を作ろうと思った	356	273	125	24
	45.8	35.1	16.1	3.1
(13)たくさんの人たちに自分の作品を見てもらえてよかった	341	297	98	42
	43.8	38.2	12.6	5.4
(9)作品作りは難しかった	322	291	114	51
	41.4	37.4	14.7	6.6
(11)自分の作品をほかの人がみて、どう思うか気になった	317	285	129	47
	40.7	36.6	16.6	6.0
(12)自分がやりたいと思ったことを自由に表現できた	225	340	166	47
	28.9	43.7	21.3	6.0
(7)自分の作品はよくできたと思った	176	317	215	70
	22.6	40.7	27.6	9.0
(1)おもしろい作品にしようと思った	157	286	239	96
	20.2	36.8	30.7	12.3

さらに、ユネスコの活動を掘り下げるために、全項目に対して、クラスター分析（平方ユークリッド距離、ウオード法）を施した。  
 第1クラスターは、「(5)見やすい作品にしようと思った」「(6)読みやすい作品にしようと思った」で形成された。リーフレットの読み手に対する配慮が感じられる結果となった。

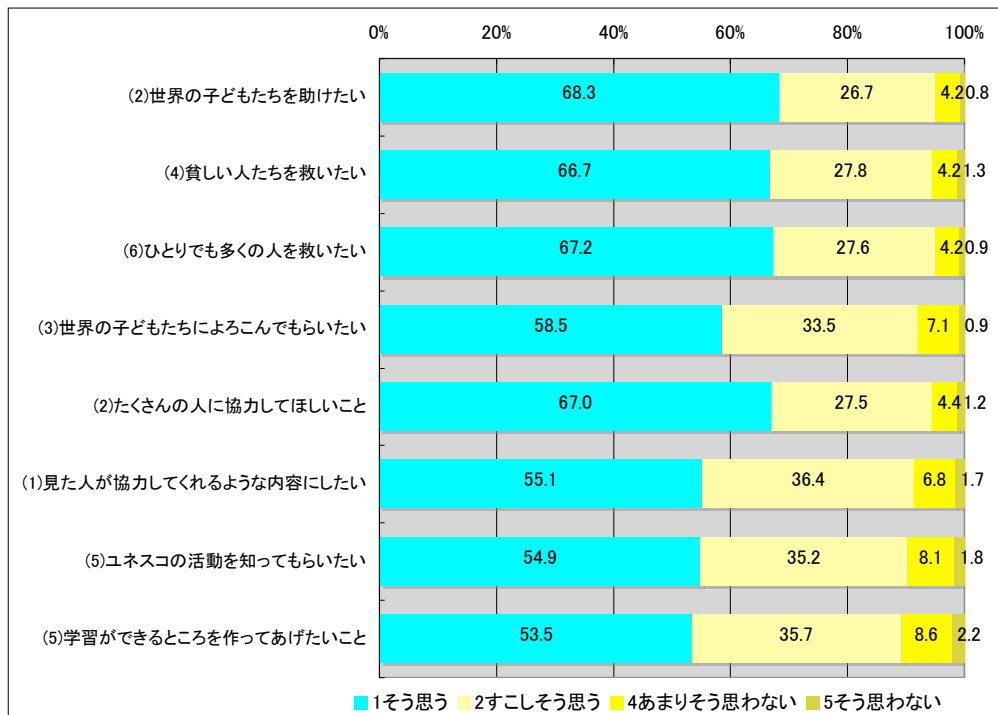
	1 そう 思う	2 すこ し そう 思う	4 あま り そう 思わ ない	5 そう 思わ ない
(5) 見やすい作品にしようと思った	517	212	34	15
	66.5	27.2	4.4	1.9
(6) 読みやすい作品にしようと思った	485	244	35	14
	62.3	31.4	4.5	1.8





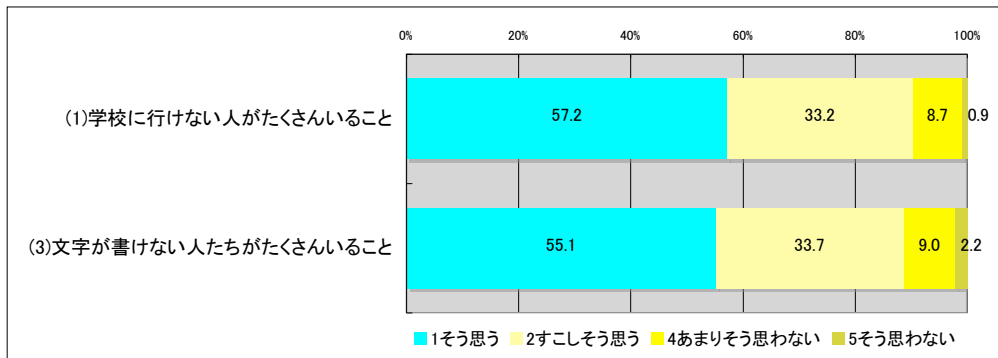
第2クラスは「(2)世界の子どもたちを助けたい」「(4) 貧しい人たちを救いたい」「(6) ひとりでも多くの人を救いたい」という、児童生徒のユネスコの活動に対する真摯な気持ちが表れている項目で形成されている。

	1そう 思う	2すこ しそう 思う	4あま りそう 思わな い	5そう 思わな い
(2)世界の子どもたちを助けたい	531	208	33	6
	68.3	26.7	4.2	0.8
(4)貧しい人たちを救いたい	519	216	33	10
	66.7	27.8	4.2	1.3
(6)ひとりでも多くの人を救いたい	523	215	33	7
	67.2	27.6	4.2	0.9
(3)世界の子どもたちによろこんでもらいたい	455	261	55	7
	58.5	33.5	7.1	0.9
(2)たくさんの人に協力してほしいこと	521	214	34	9
	67.0	27.5	4.4	1.2
(1)見た人が協力してくれるような内容にしたい	429	283	53	13
	55.1	36.4	6.8	1.7
(5)ユネスコの活動を知ってもらいたい	427	274	63	14
	54.9	35.2	8.1	1.8
(5)学習ができるところを作ってあげたいこと	416	278	67	17
	53.5	35.7	8.6	2.2



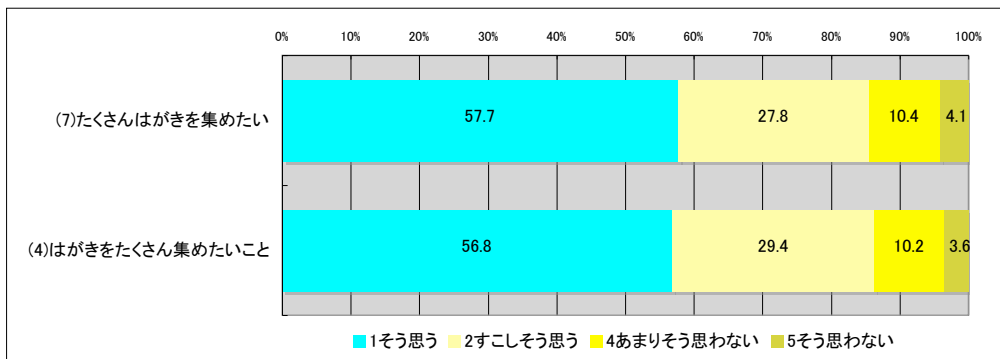
第3クラスは「(1)学校に行けない人がたくさんいること」「(3)文字が書けない人たちがたくさんいること」の2項目から形成されている。これらは、「3、リーフレットをみる人にどんなことが伝わるように作っていましたか。」の中の項目である。これらは、「寺子屋を必要とする環境を知ってもらいたい」という項目で、他の「はがきを集めたい」という意図とは少し傾向がちがうのかクラスタ分析では分離された。いずれにしろ、児童生徒が訴えようとする意図が感じられる結果となっている。

	1そう思う	2すこし思う	4あまりそう思わない	5そう思わない
(1)学校に行けない人がたくさんいること	445	258	68	7
	57.2	33.2	8.7	0.9
(3)文字が書けない人たちがたくさんいること	429	262	70	17
	55.1	33.7	9.0	2.2



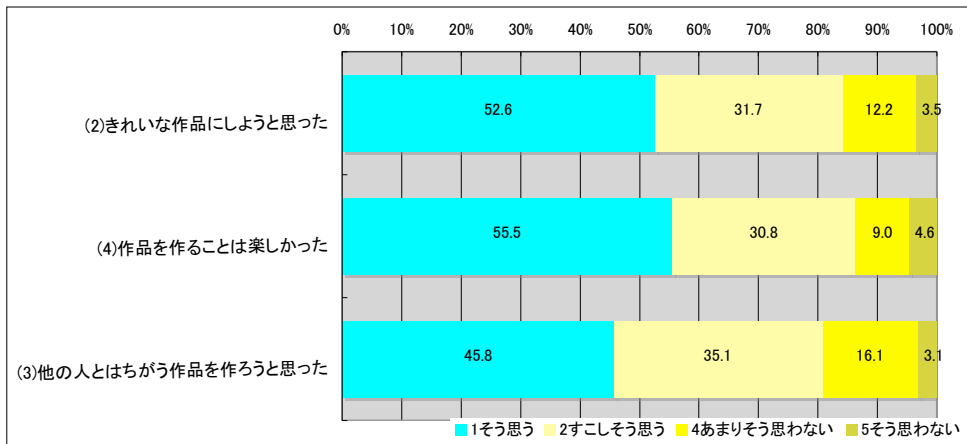
第4クラスは第3クラスから分離した項目になっている。「たくさんはがきを集めたい」という意図がよく表れている。

	1そう思う	2すこし思う	4あまりそう思わない	5そう思わない
(7)たくさんはがきを集めたい	449	216	81	32
	57.7	27.8	10.4	4.1
(4)はがきをたくさん集めたいこと	442	229	79	28
	56.8	29.4	10.2	3.6



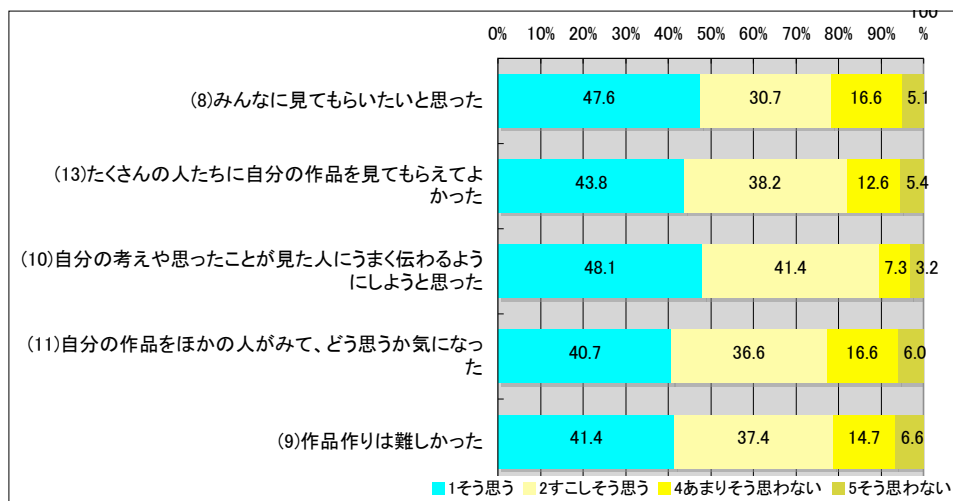
第5クラスは、「(2)きれいな作品にしようと思った」「(4)作品を作ることは楽しかった」「(3)他の人とはちがう作品を作ろうと思った」と、他のクラスと違い、リーフレットの作成時の感想が項目群を形成した。ユネスコ本来の活動を意識しながらも作品作りを楽しんでいたことがわかる。

	1そう 思う	2すこ しそう 思う	4あま りそう 思わな い	5そう 思わな い
(2)きれいな作品にしようと思った	409	247	95	27
	52.6	31.7	12.2	3.5
(4)作品を作ることは楽しかった	432	240	70	36
	55.5	30.8	9.0	4.6
(3)他の人とはちがう作品を作ろうと思った	356	273	125	24
	45.8	35.1	16.1	3.1



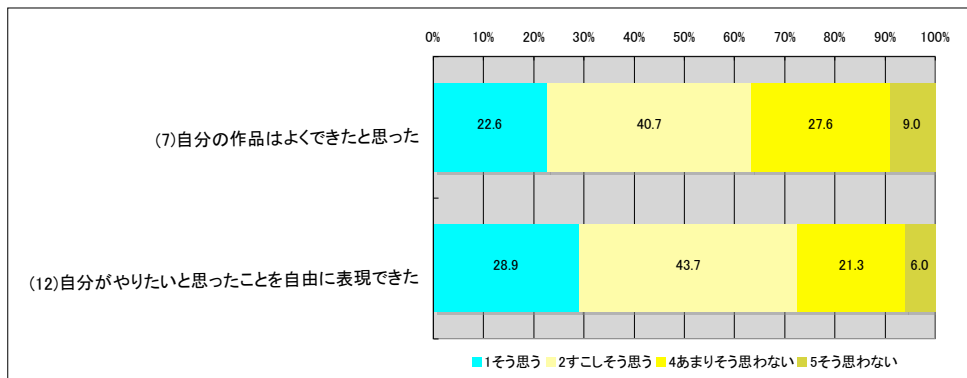
第6クラスは、「(8)みんなに見てもらいたいと思った」「(13)たくさんの人たちに自分の作品を見てもらえてよかった」「(10)自分の考えや思ったことが見た人にうまく伝わるようにしようと思った」といった、リーフレットを見る人の目を意識した項目となっている。ユネスコの活動に関わり、作品作りを楽しみながらも、「見られること」を意識しながら活動していたことがわかる。

	1そう 思う	2すこ しそう 思う	4あま りそう 思わな い	5そう 思わな い
(8)みんなに見てもらいたいと思った	370 47.6	239 30.7	129 16.6	40 5.1
(13)たくさんの人たちに自分の作品を見てもらえてよかった	341 43.8	297 38.2	98 12.6	42 5.4
(10)自分の考えや思ったことが見た人にうまく伝わるようにしようと思った	374 48.1	322 41.4	57 7.3	25 3.2
(11)自分の作品をほかの人がみて、どう思うか気になった	317 40.7	285 36.6	129 16.6	47 6.0
(9)作品作りは難しかった	322 41.4	291 37.4	114 14.7	51 6.6



第7クラスは「(7)自分の作品はよくできたと思った」「(12)自分がやりたいと思ったことを自由に表現できた」という設問に、「そう思う」と答えている割合が非常に低い項目で形成されている。特に気になるのは、「(7)自分の作品はよくできたと思った」に「そう思う」と答えている児童生徒は約22%だということである。このことは突っ込んだ分析が必要である。

	1そう 思う	2すこ しそう 思う	4あま りそう 思わない	5そう 思わな い
(7)自分の作品はよくできたと思った	176 22.6	317 40.7	215 27.6	70 9.0
(12)自分がやりたいと思ったことを自由に表現できた	225 28.9	340 43.7	166 21.3	47 6.0



### 3 総合考察

全体を俯瞰してみると、児童生徒たちは、ユネスコ本来の活動に接して「(2)世界の子どもたちを助けたい」「(6)ひとりでも多くの人を救いたい」という気持ちで活動していたことがわかる。さらに、「(2)きれいな作品にしようと思った」「(4)作品を作ることは楽しかった」「(3)他の人とはちがう作品を作ろうと思った」とリーフレット作りを楽しんでいたことがわかる。

一方、「(7)自分の作品はよくできたと思った」「(12)自分がやりたいと思ったことを自由に表現できた」と感じている児童生徒が少ないことがわかる。この原因としては、様々なことが考えられる。

1)自分の作品に対する評価が辛い：ユネスコの活動に接して自分の作品を見た時に「このような作品ではまだ不十分である。」というように見てしまった。

2)他の作品のできればえに気圧されてしまった：長年続いている活動において、優秀なリーフレットが「参考作品」として提示される。それとの比較や、友人との比較において自己評価が下がった。

3)課題の困難さ：「ユネスコの活動を知ってもらう」「書き損じはがきを集める」と言った課題を達成するような作品作りは児童生徒にはたいへんな課題である。

4)パソコンやソフトなどの使いにくさ：どのようなデジタル機器を使った活動でも、共通した課題となるのが、パソコンやソフトの使いにくさやPC環境の悪さである。

以上のようなことが考えられる。いずれにしても、自己評価にどの要素が大きく関わっているのかをあきらかにいかねばならないだろう。

### 4 課題

○自分の作品に対する自己評価の悪さは、なぜ生じるのかを明らかにしていかなければならないと考えている。

### 5 謝辞

児童・生徒がつくるユネスコ・世界寺子屋運動リーフレット制作プロジェクト2005を進めるにあたって、日本ユネスコ協会連盟、全国各地のユネスコ協会の皆さんはじめ、書きそんじハガキ回収など支援活動にご協力いただいた皆さん、たくさんの皆様のご支援とご援助をいただきました。ここに記し、お礼を申し上げます。